資料１

ＳＤＧｓの推進に係る協定の締結について

●背景及び目的

本市は、東日本大震災に起因する地域コミュニティの崩壊や復興公営住宅における高齢独居世帯の増加等の課題を解決するため、自治体ＳＤＧｓモデル事業として、ＡＩ機能搭載のコミュニケーションロボットを活用した取組みを展開することとしている。

ロボットの活用は、ＡＩやＩｏＴ等の未来技術の活用に資するものであり、本市の課題解決の一助になるものであるが、事業推進にあたり、モデル事業のステークホルダーでもあり、これまでにもＳＤＧｓの特集記事を掲載する等ＳＤＧｓに取り組んできた（株）講談社より、連携協定締結の提案があり、同社が持つリソースを活用できる体制を構築することで、モデル事業のより一層の推進と本市のＳＤＧｓの取組みを内外に幅広く発信できるメリットが期待できる。

以上のことから、相互の連携・協力関係を深め、コミュニケーションロボットを活用した高齢者の孤立防止や外出機会の創出に取り組み、ＳＤＧｓの達成及び石巻市ＳＤＧｓ未来都市の実現を目指していくもの。

●これまでの経過

令和２年１０月２６日　　（株）講談社とＳＤＧｓの推進に係る協定の締結

●主な内容

１　連携事項

⑴ 地域に雇用を生み稼ぐ仕組みの構築に関すること
⑵ 未来技術の活用及びＩＴ人材の育成に関すること
⑶ 地域コミュニティによる支え合いの推進に関すること
⑷ 次世代型地域包括ケアの推進に関すること
⑸ 低炭素社会の実現に関すること
⑹ 環境市民の育成に関すること
⑺ その他、ＳＤＧｓの普及啓発及び達成に向けた取組に関すること

２　協定締結期間

協定締結の日から令和３年３月３１日まで（その後は１年ごとに更新）とする。

2020年度自治体SDGsモデル事業提案概要（提案様式3）

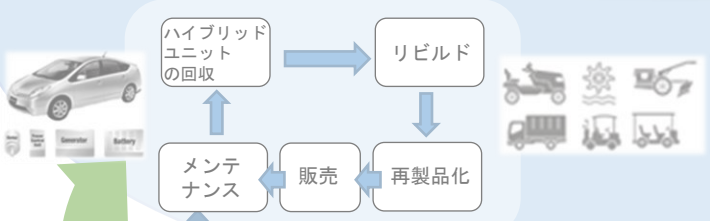
自治体SDGsモデル事業名： コミュニティを核とした 持続可能な地域社会の構築	提案者名：宮城県石巻市

取組内容の概要：公共交通と地域カーシェアリングを結び付ける地域交通情報アプリケーション（ローカル版MaaS）を活用し、グリーンスローモビリティを地域の支え合いによる新たな移動手段として確立する。また、未来技術を搭載したAIロボットを高齢者と地域を繋ぐ新たなコミュニケーションツールとし、高齢者の孤立防止等を図る。

経済

＜取組課題＞
新産業の創出等による、
地域に雇用を生み稼ぐ仕組みの構築

○ハイブリッドリユース事業の展開
・豊田通商㈱と地元事業者が連携し、ハイブリッド基幹ユニットをリユースし、電気自動車（グリーンスローモビリティ）として活用
・新産業創出による雇用の拡大



相乗効果
（経済→環境）
ハイブリッドリユース事業による資源の有効利用及び温室効果ガス排出抑制

（環境→経済）
100%自然エネルギーのグリーンスローモビリティ活用による環境に配慮した新産業の創出

相乗効果
（経済→社会）
新産業創出に伴う移動手段の利便性向上

（社会→経済）
高齢者等の外出機会の創出による消費拡大

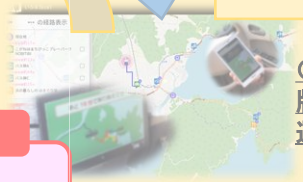
三側面をつなぐ統合的取組

グリーンスローモビリティを活用した協働による新たな移動手段の構築事業

- **地域交通情報アプリケーションの構築**
- **グリーンスローモビリティ（ハイブリッドリユース）の活用**
- **コミュニケーションロボットの活用**

社会

＜取組課題＞
東日本大震災に起因した半島沿岸部及び新市街地における高齢者の孤立防止と新たな移動手段の構築



○地域交通情報アプリケーション（ローカル版MaaS）を活用した地域カーシェアリングの運用
・IoT/ICT技術による公共交通と地域カーシェアリングの結び付け

○コミュニケーションロボットによる高齢者支援
・会話形式の動的支援によるデジタルデバイドの解消
・高齢世帯へ設置し、相談支援を行うとともに、地域交通情報アプリケーション（ローカル版MaaS）との連携により外出機会を創出
・学生がロボットを組み立て高齢者宅へ配置
・コールセンターによる相談支援を併用

相乗効果
（環境→社会）
グリーンスローモビリティ活用による高齢者の外出機会の創出及びコミュニティの活性化

（社会→環境）
積極的な啓発活動による環境人材の育成

環境

＜取組課題＞
環境にやさしい低炭素社会の構築

○グリーンスローモビリティの活用
・ハイブリッドリユース事業で生産された電気自動車（グリーンスローモビリティ）を、コミュニケーションロボットを通じて高齢者が使用
・太陽光電池を搭載した非接触給電ステーションの設置により、100%自然エネルギーによるグリーンスローモビリティを実現
・新たに整備した新市街地（新蛇田地区）で実証実験を行い、その後、半島沿岸部、市全域への展開と将来的な自動運転化を目指す。